

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう} 放送原稿（2月27日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。

今朝は，奄美図書館の新着図書についてご案内します。

まずは，一般書のご案内です。

1冊めは，ベストセラーとなった『女性の品格』や『親の品格』の著者の板東眞理子^{ばんどう まり こ}さんの『時は移り，時は実る』です。この本では，古典の作品から「日本人とは何ものか」「日本文化とは」といったことに対して，具体的な作品を取り上げ，日本人の美意識の原点を見出そうとしています。古典には時の流れの中で生き残ってきた生命力があります。一度読んでわかったつもりでも，読み返してみるとまた違った意味合いを持っているのが古典の力です。読む人の立場や，時代状況によってさまざまな解釈がされてきました。現在，あらゆる分野で日進月歩^{にっしんげつぽ}を遂げていますが，今こそ古典を読み，自分の基本を確立すべきであるとしています。また，様々な場面での品格についても述べられています。

2冊めは，齋藤孝^{さいとう たかし}さんの『超訳 吉田松陰語録』^{よしだ しょういん}です。吉田松陰は山口県の出身で10歳の時に長州藩の藩校・明倫館^{めいりんかん}で教え，25歳で叔父の開いた松下村塾^{しょうか そんじゅく}で講義を始めています。門下生には，高杉晋作^{たかすぎ すすく}，伊藤博文^{いとう ひろぶみ}，山県有朋^{やまがた ありとも}など幕末から明治維新にかけて活躍した優秀な人たちばかりです。この本では，常に「国のために，世のため人のために何ができるか」を考えて行動した吉田松陰の言葉をわかりやすく現代風に翻訳された形になっています。だれにでも読みやすくなっていると思います。ぜひ一度，手にとってみてください。

次は，児童書をご案内しましょう。

1冊めは，清水千恵^{しみず ちえ}さんの『ぼくとお父さん』です。小学生けんのお父さんは交通事故で亡くなってしまいます。その日から，家を引っ越して，お母さんも働くようになって生活の全部が変わってしまいました。そして，うまく話せなくなってしまう。お父さんと一緒にがんばってきた野球の練習にも行かなくなり，一緒に野球をしていた幼馴染^{おきな な じみ}のたいちからは「いじけ虫」と呼ばれるようになりました。親友のたいちなら自分の気持ちを分かってくれると思っていたのに……。ある日，けんは，たいちからとびっきりの場所を教えてください。一緒に向かった先は住んでいる町が見渡せる小さな丘です。そこ

でたいちは、けん「このまま野球をやめちゃうの？」と話し始めます。お互いに思っていることを打ち明けていくうちに、けんにある変化があらわれます。やっぱり親友っていいな、と思える1冊です。

2冊めは、いもとようこさんの絵本『てぶくろ』です。寒い雪の日、手袋を持っていないみみたんがお姉ちゃんに「手が冷たいよー。お姉ちゃん、手袋を貸して！」と言うと、お姉ちゃんは、片方の手袋を渡しました。でも、もう片方の手が冷たいのです。みみたんは、またお姉ちゃんに「もう片方も貸してー！」と言いました。すると、お姉ちゃんは黙ってみみたんの手を握り、「こうして手を繋げば、暖かいでしょ！」と言ってぎゅっと握りました。みみたんもぎゅっと握り返しました。そうすると、もっと暖かくなりました。「こうしていれば、手袋は一つでいいんだね！」と嬉しそうです。そこにおばあちゃんも迎えに来たので、おばあちゃんを真ん中にして3人で手をつなぎました。そして、もっといっぱい的人数で手を繋いでも手袋は一つでいいんだね！といって次々に出会った人と手を繋いでいき、最後には、一つの輪になり手袋はいらなくなりました。心もぽかぽか温まるお話です。ぜひ、親子で読んでみてください。

最後は郷土に関する本のご案内です。

いずみさわあい さんの『仏燈は消えず』です。ウナリ叢書「奄美新時代の女性たち」のシリーズ第4弾になります。今回は、名瀬大正寺三代目住職の財部ツキエさんについて書かれています。財部さんは、生まれは熊本県玉名市ですが、父親の仕事の関係で生後すぐにアメリカのバークレーに住み、その後ハワイに移住します。幼少期にバークレー寺院にお参りし、そこで仏教に興味を持ち始めたようです。帰国後は、仏教学院に進学し、縁あって奄美の大正寺の住職に嫁ぎ、仏教婦人会を立ち上げて女性たちの意識向上・地位向上を訴え、名瀬市議会議員に当選します。また、名瀬婦人会副会長となり、奄美の日本復帰運動の際には、アメリカのルーズベルト大統領夫人に直訴しています。また、女性の地位向上を目指し、国連本部にも赴きます。住職の傍ら、様々な活動に貢献されている様子が、描かれています。

さて、2月も明日まで、卒業・進学・就職・転勤と慌ただしい時期になってきましたが、どうぞ、読書で気分転換をしてみてはいかがでしょうか。

鹿児島県立奄美図書館でした。